Part 1

CHAPTER 7

販売管理アプリケーションの開発⑤
見積情報を管理する

7.1. 見積情報データモデルを追加する

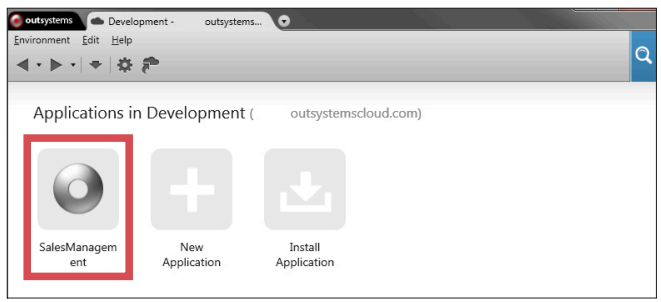
アプリケーションの変更を開始する

「SalesManagment」eSpaceを開いている場合はそのままで、開いていない場合は以下手順によりeSpaceを開く。

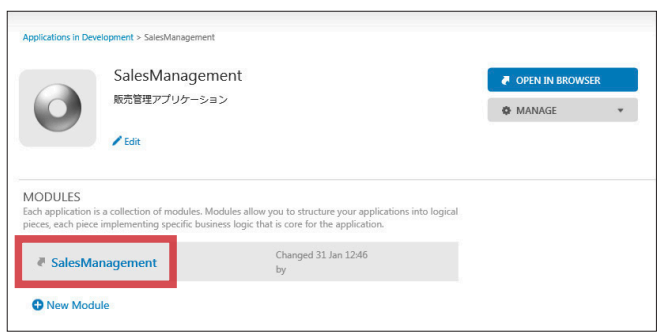
01 「SalesManagement」アプリケーションをクリックして開く。

02 「MODULES」から「SalesManagement」eSpaceをクリックする。

01



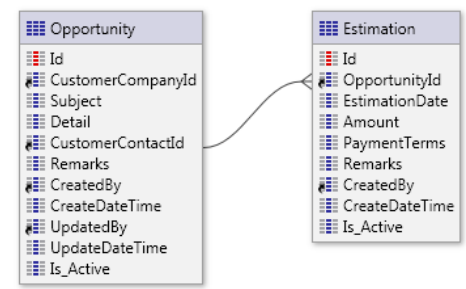
02



データモデルを作成する

顧客企業担当者情報を格納するデータモデルを作成します。「Estimation」というEntityを作成して、以下の情報を格納できるようEntity Attributeを追加していきます。
見積情報は、新規追加と論理削除のみが行えます。簡易的に履歴保存を行なえるよう、編集はできないようにします。

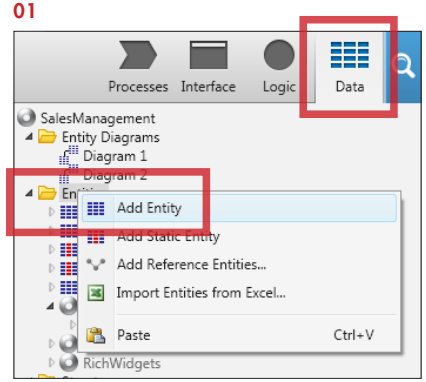
- 案件情報
- 見積日
- 見積金額
- 支払条件
- 備考
- 作成者
- 作成日時
- 有効／無効



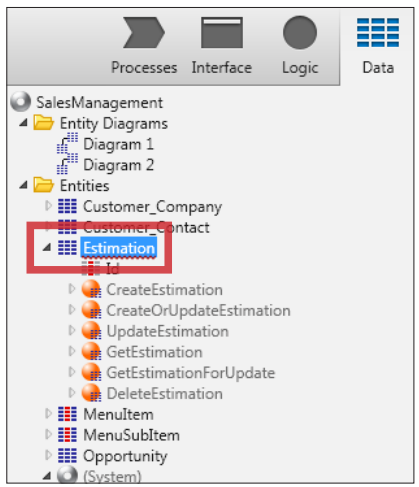
01 Dataレイヤを開き、「Entities」フォルダを右クリックし、「Add Entity」からEntityを追加する。

02 Entityの名前は「Estimation」とする。

01

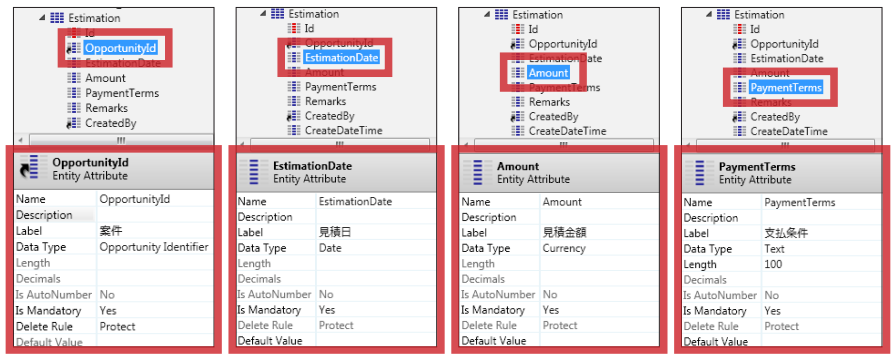


02

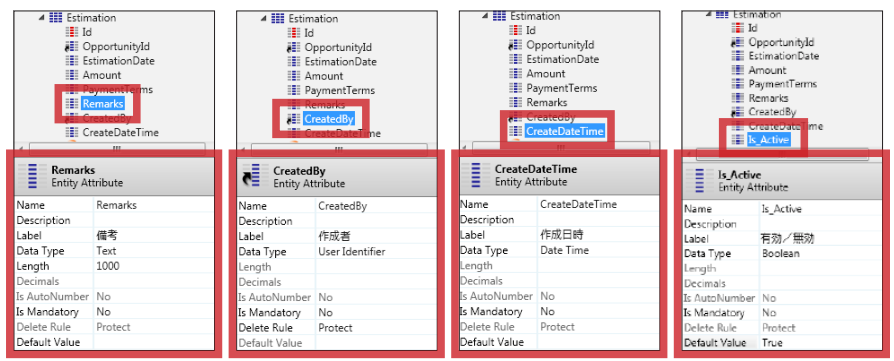


03 「Estimation」Entityを右クリックし、「Add Entity Attribute」から次のAttributeを追加していく。

- 案件：OpportunityId
- 見積日：EstimationDate
- 見積金額：Amount
- 支払条件：PaymentTerms



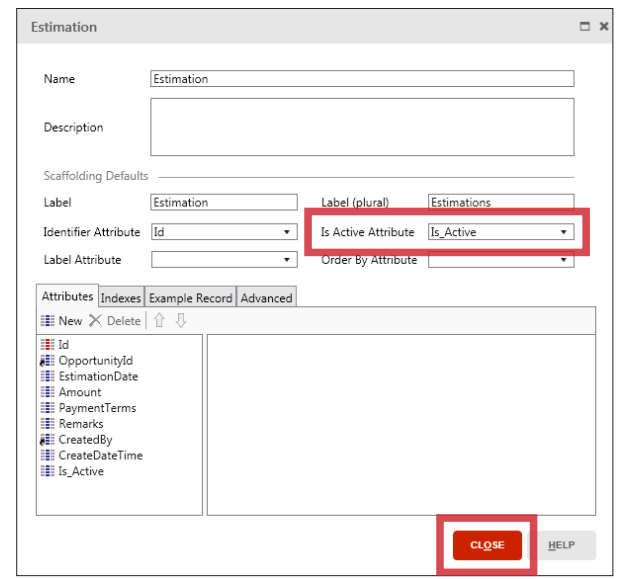
- 備考：Remarks
- 作成者：CreatedBy
- 作成日時：CreateDateTime
- 有効／無効：Is_Active



04「Estimation」Entityをダブルクリックして Entity Editorを開き、「Is Active Attribute」のドロップダウンから「Is_Active」を選択する。

05「CLOSE」ボタンを押す。

04・05



7.2. 一覧及び新規登録画面を作成する

一覧画面を作成する

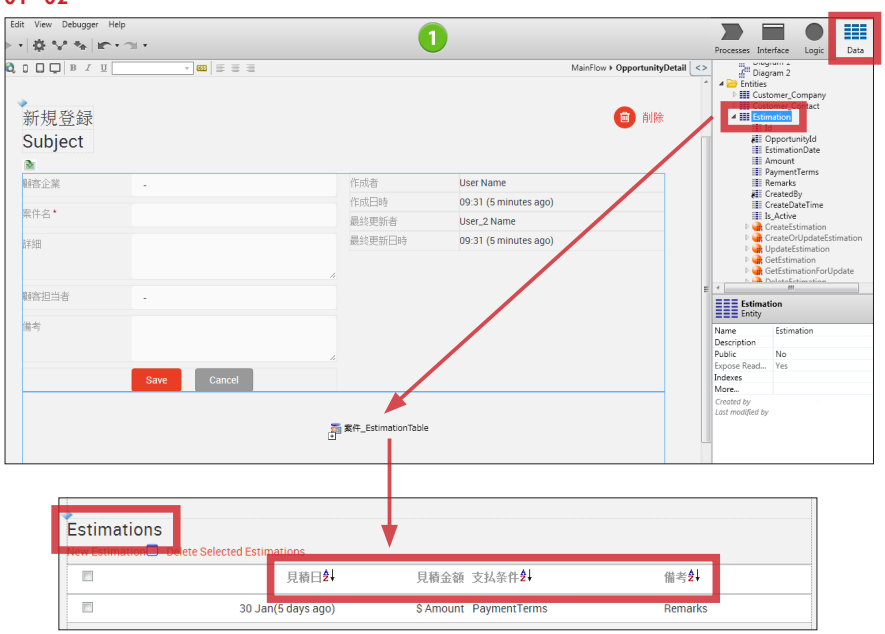
見積情報は、案件情報に紐づくため、案件詳細ページで一覧を管理できるようにします。

01 Interface レイヤを開き、「ScreenFlow」>「MainFlow」の「OpportunityDetail」WebScreen をダブルクリックで開く。

02 Data レイヤを開き「Estimation」Entity をドラッグして、「OpportunityDetail」WebScreen の下部にドロップする。

- 「Estimations」というラベルと、「Estimation」Entity の項目を持つ表が生成されることを確認します。

01・02

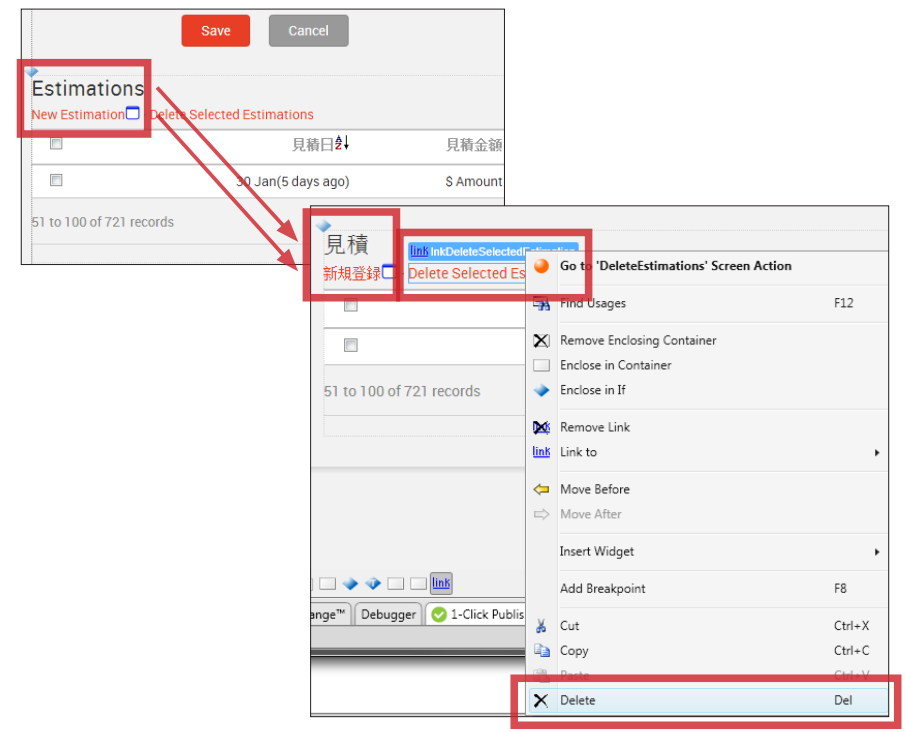


03 「Estimations」というラベルを「見積」と変更する。

04 「New Estimation」というリンクのラベルを「新規登録」にする。

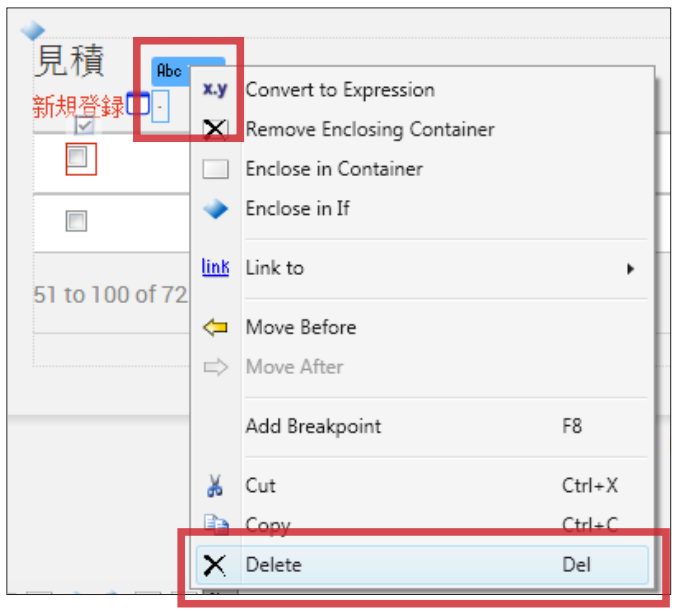
05 一括削除はできないよう、「Delete Selected Estimations」Link を削除する。

03・04・05



06 その左隣にあるセパレータの「Text」も削除する。

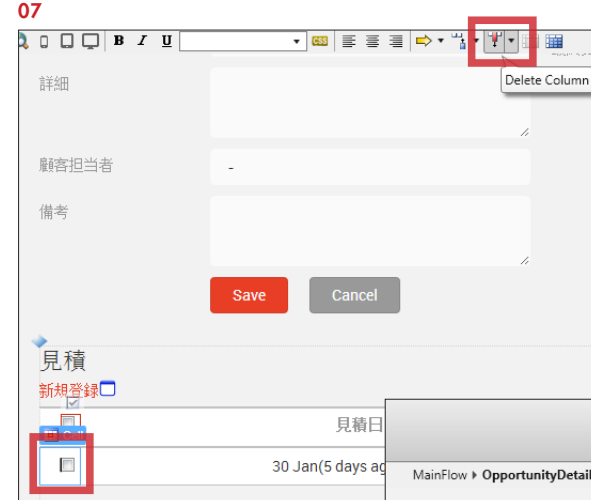
06



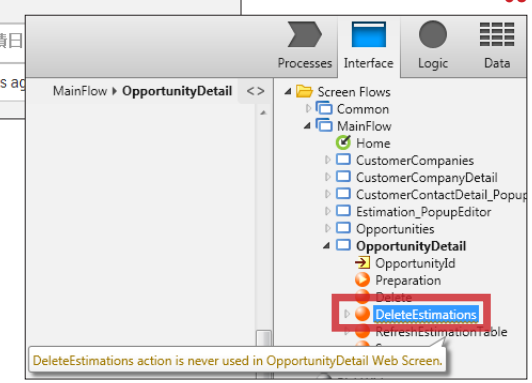
07 「見積」一覧の先頭のチェックボックスの列は不要なので、「Delete Column」で削除する。

08 また、削除した「Delete Selected Estimations」Linkの Destinationとして設定されていた「DeleteEstimations」Screen Actionも不要となったので、右クリックで「Delete」を選択して削除する。

07



08

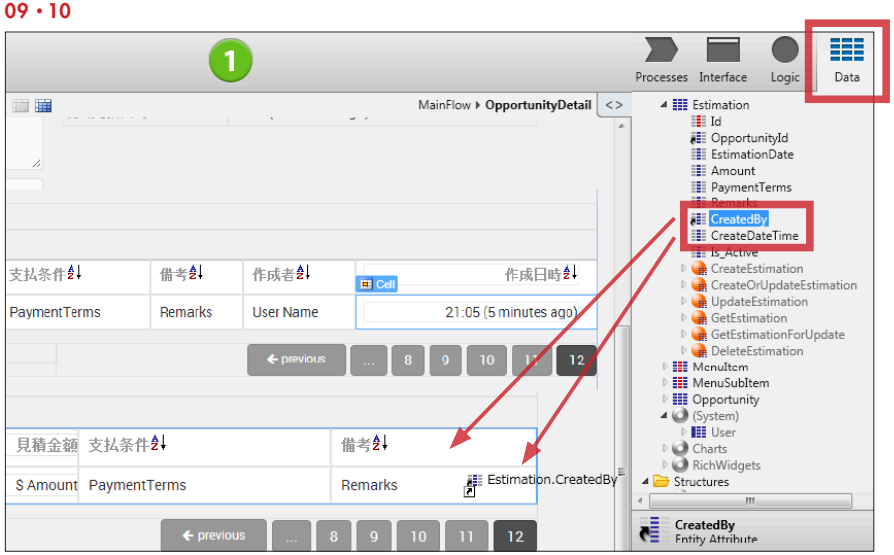


一覧に、「作成者」と「作成日時」を表示させます。

09 Dataレイヤを開き「Estimation」Entityの「CreatedBy」をドラッグして、「備考」の右側に入るようにドロップする。

10 また、「CreateDateTime」も同様にドラッグアンドドロップで「作成日時」列を追加する。

09・10



新規登録画面を修正します

01 「見積」の「新規登録」のLinkをダブルクリックする。

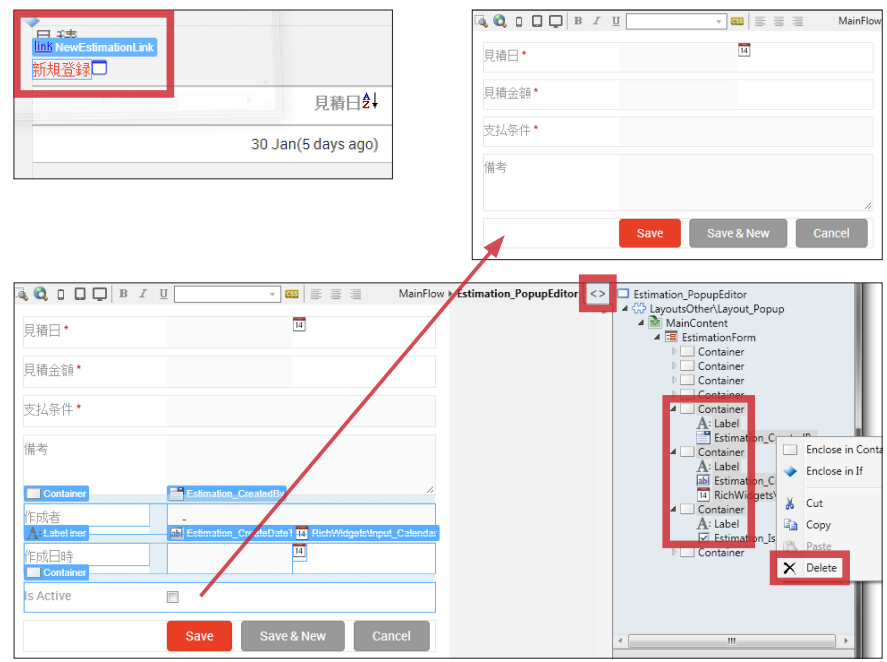
- Linkの「Destination」プロパティに設定された「Estimation_PopupEditor」Web Screenが開きます。

02 「Widget Tree」を開き、「作成者」が含まれるContainerから「Is Active」が含まれるContainerまでを選択して削除する。

- 「作成者」「作成日時」「Is Active」は保存処理の中で自動設定できるようにします。

01

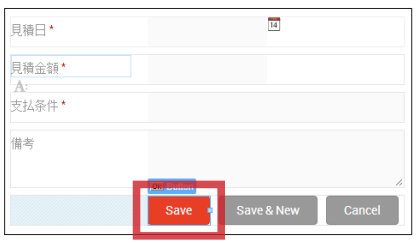
02



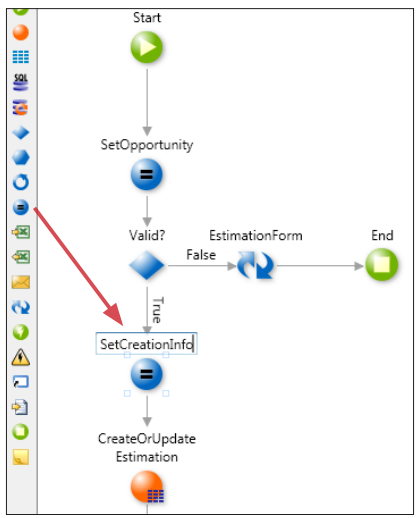
03 Estimation_PopupEditorの「Save」ボタンをダブルクリックし、「Save」Screen Actionを開く。

04 ツールボックスから「Assign」をドラッグし、「Valid?」の次にドロップする。

03



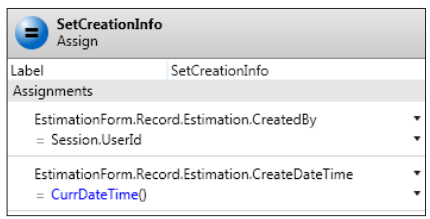
04

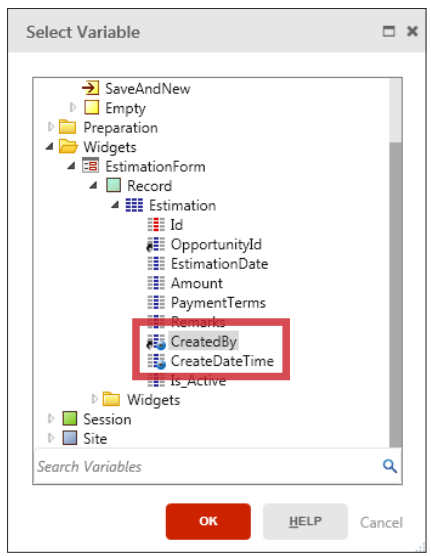


05 ドロップしたAssignのプロパティを図のように設定する。

- 見積情報は、新規登録のみとするため、作成情報のみを保存します。

05





トップページを変更する

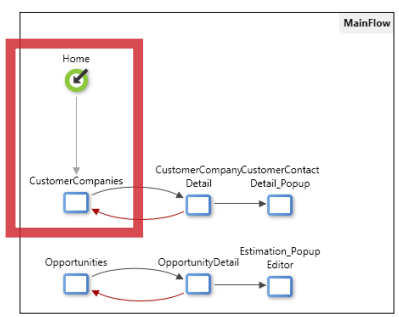
現状、ログイン後には「顧客企業一覧」画面に遷移します。これを、最初に「案件一覧」に遷移するように変更します。

01 Interface レイヤを開き、「Screen Flows」>「MainFlow」をダブルクリックで開く。

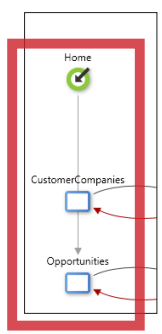
02 「Home」から「CustomerCompanies」Web Screen に引いてあるフロー線を「Opportunities」Web Screen に繋ぎかえる。

03 わかりやすいように、「CustomerCompanies」Web Screen の位置を線上から移動させる。

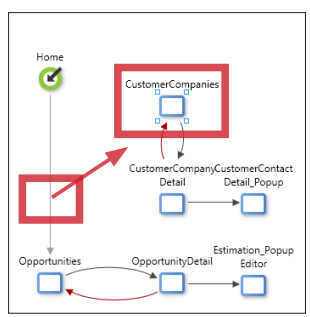
01



02



03



1-Click Publishをして、アプリケーションの動作を確認する

01 1-Click Publishボタンを押して、Publishを行う。

02 Open In Browserボタンを押して、ブラウザを起動する。

03 「案件一覧」画面が表示されることを確認する。

04 任意の登録済案件情報を選択して、詳細／編集画面に遷移する。

- 1件も登録されていない場合には、「新規登録」リンクから登録します。

05 見積一覧が表示されることを確認し、「見積」ラベルの直下にある「新規登録」リンクをクリックする。

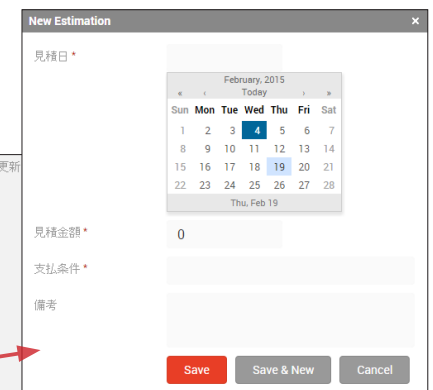
06 見積情報登録用のポップアップ画面から任意項目を入力し、登録が完了できることを確認する。

01

02

04・05

06



7.3. 日時と金額の表示を変更する

日時のフォーマットを変更する

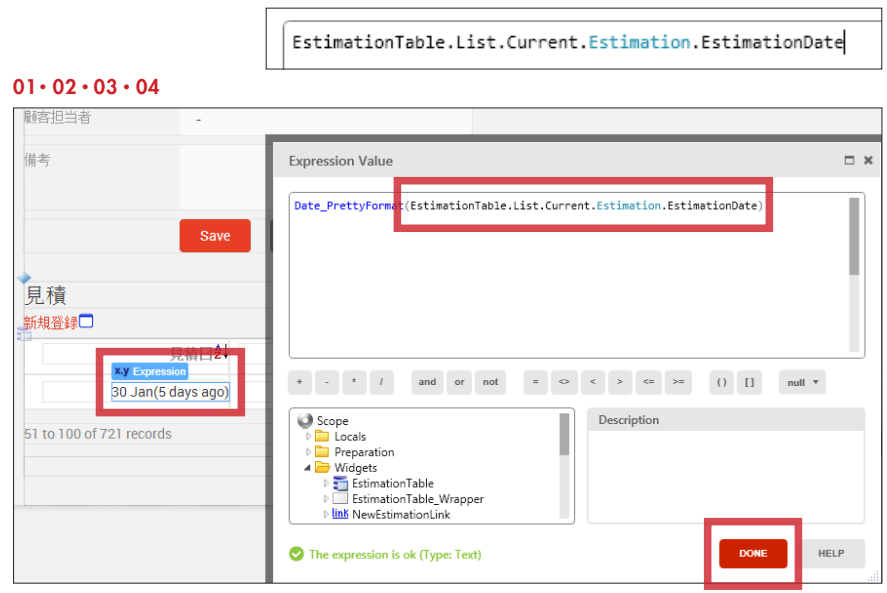
先に動作させた通り、デフォルトの日時及び金額の表示が日本向けではないため、フォーマットを変更していきます。

01「OpportunityDetail」WebScreenを開く。

02「見積日」列の「Expression」をダブルクリックして、エディタを開く。

03「Date_PrettyFormat」Functionを取り除き、「EstimationTable.List.Current.Estimation.EstimationDate」のみとする。

04「DONE」ボタンをクリックしてエディタを閉じる。



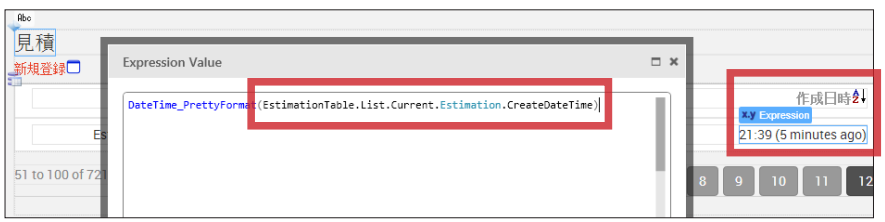
05 「作成日時」列の「Expression」をダブルクリックして、エディタを開く。

06 同様に、「Date_PrettyFormat」Functionを取り除き、「EstimationTable.List.Current.Estimation.CreateDateTime」のみとする。

07 「DONE」ボタンをクリックしてエディタを閉じる。

```
EstimationTable.List.Current.Estimation.CreateDateTime
```

05・06・07



金額のフォーマットを変更する

まず、小数点以下を表示させないようにします。

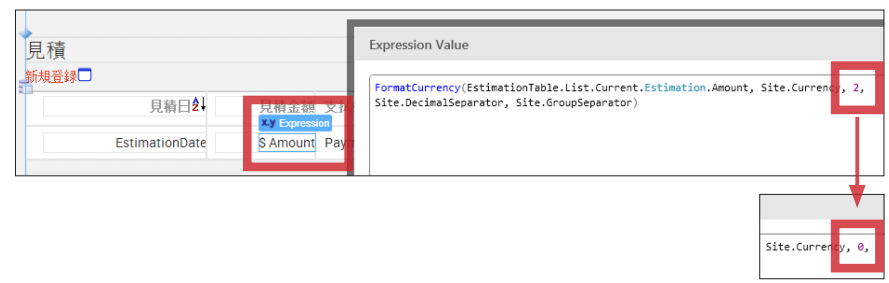
01 「見積金額」列の「Expression」をダブルクリックして、エディタを開く。

02 3つ目の引数「2」を「0」に変更する。

- 「FormatCurrency」Functionの引数は以下の順で定義されているため、小数点以下の桁数を0に設定すると、小数点以下を表示させないようにできます。
  - 対象の値
  - 通貨記号
  - 小数点以下の桁数
  - 小数点の記号
  - 桁区切りの記号

03 「DONE」ボタンをクリックしてエディタを閉じる。

01・02・03

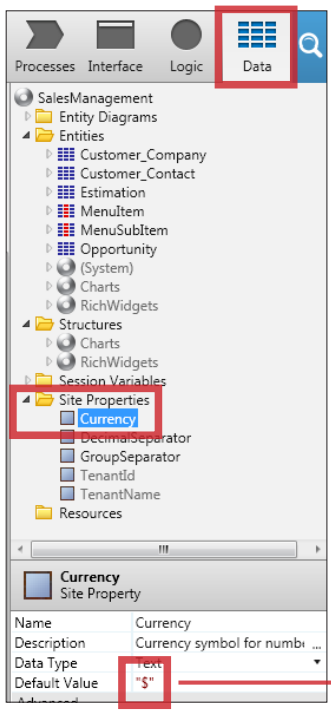


次に、通貨記号を表示させないようにします。ここで出てくる「Site.Currency」「Site.Decimal Separator」「Site.GroupSeparator」は、いずれもSite Propertyです。この初期値を変更します。

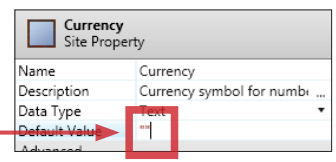
04 Dataレイヤを開き、「Site Properties」>「Currency」を選択する。

05 プロパティ「Default Value」に「"" (空文字)」を設定する。

04



05



1-Click Publishをして、アプリケーションの動作を確認する

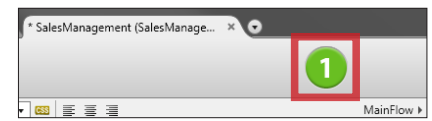
01 1-Click Publishボタンを押して、Publishを行う。

02 Open In Browserボタンを押して、ブラウザを起動する。

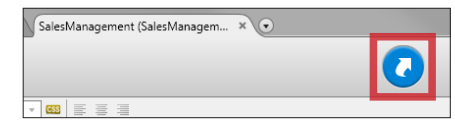
03 「案件一覧」から任意の登録済案件情報を選択して、詳細／編集画面に遷移する。

04 見積一覧の、日付及び金額のフォーマットが変わっていることを確認する。

01



02



03・04

7.4. 削除ロジックを追加する

削除リンクを追加する

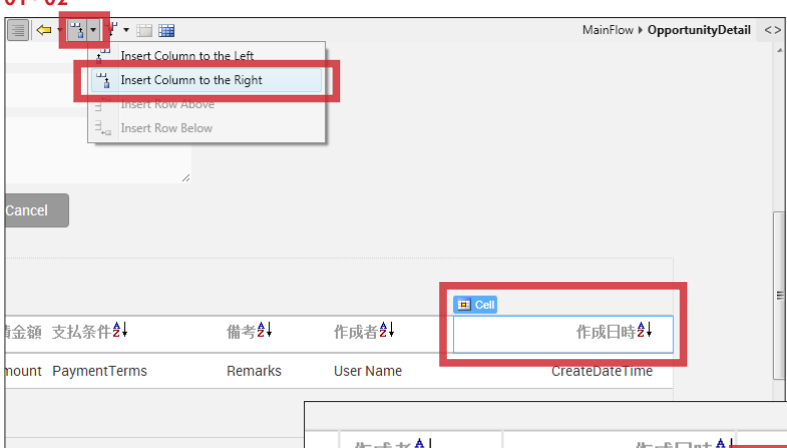
01 「OpportunityDetail」Web Screenを開く。

02 見積一覧の「作成日時」のセルを選択状態にして、上部の「Insert Column to the Right」をクリックする。

03 「作成日時」の右側に列が追加されたら、データ欄に「削除」と入力する。

04 入力した「削除」テキストを右クリックして、「Link to」>「(New Screen Action)」を選択する。

01・02



03・04

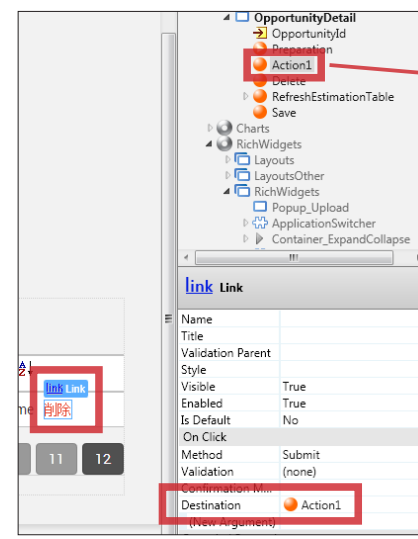
05 「削除」テキストがLinkに包含され、そのLinkの「Destination」プロパティに設定された「Action1」Screen Actionが生成されていることを確認する。

06 「Action1」Screen ActionのNameを「DeleteEstimation」と変更する。

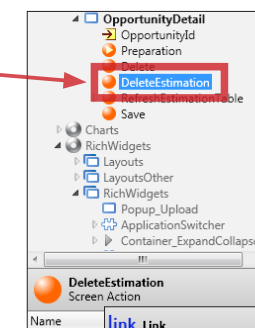
07 「削除」Linkのプロパティのうち、「On Click」>「Method」を「Ajax Submit」に、「Confirmation Message」を「"見積情報を削除します。よろしいですか?"」に設定する。

- Methodは、それぞれ以下の動作を行います。
  - Submit : サーバにデータを送信。
  - Ajax Submit : 非同期でサーバにデータを送信。
  - Navigate : Destinationで指定した画面に遷移。

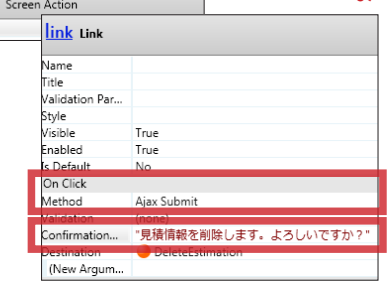
05



06



07



論理削除とするため、「Is_Active」に「False」を設定して、データ更新を行います。

08 「OpportunityDetail」>「DeleteEstimation」をダブルクリックして開く。

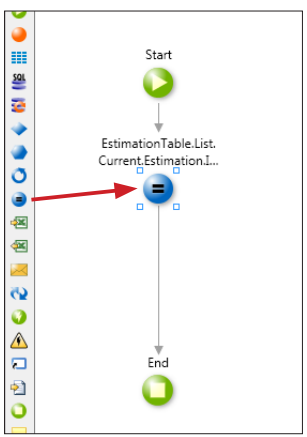
09 左側のツールボックスから「Assign」をドラッグし、アクションフローの「Start」の次にドロップする。

10 配置した「Assign」の「Variable」のドロップダウンリストから、「(Select Variable...)」を選択する。

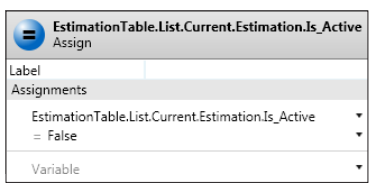
11 「Select Variable」画面が開いたら、「Widgets」>「EstimationTable」>「List」>「Current」>「Estimation」の「Is_Active」を選択して、「OK」ボタンを押す。

12 「Value」に「False」を設定する。

08・09・10



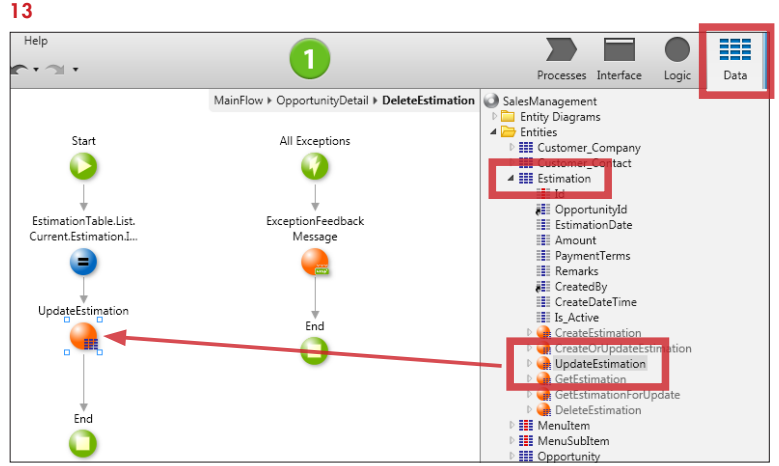
11・12



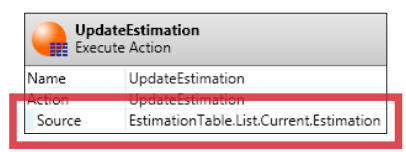
13 Data レイヤを開き、「Entities」>「Estimation」から「UpdateEstimation」をドラッグして、アクションフロー上の「Assign」の次にドロップする。

14 「UpdateEstimation」アクションのプロパティ「Source」のドロップダウンリストを開き、Suggestions から、「EstimationTable.List.Current.Estimation」を選択する。

13



14

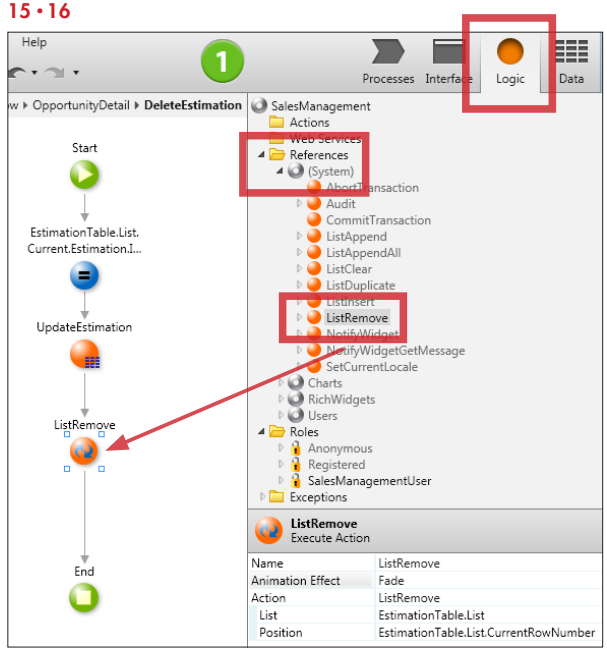


15 Logic レイヤを開き、「References」>「(System)」>「ListRemove」をドラッグして、「UpdateEstimation」の次にドロップする。

16 図のように、プロパティを設定する。

- 「EstimationTable.List」はWeb Screen上の見積一覧のレコードことを指してます。「Position」に設定した「CurrentRowNumber」は、現在クリックされたデータ行の行番号です。
- 「Animation Effect」を設定することにより、当動作時の画面上のアニメーション効果を付けることができます。

15・16



1-Click Publishをして、アプリケーションの動作を確認する

01 1-Click Publishボタンを押して、Publishを行う。

02 Open In Browserボタンを押して、ブラウザを起動する。

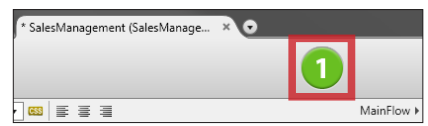
03 登録済案件を選択して、詳細／編集画面に遷移する。

04 任意の見積の削除リンクをクリックする。

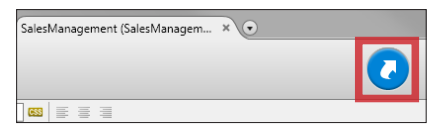
05 確認メッセージが表示されることを確認する。

06 OKを押すと見積一覧から、選択した見積が削除されることを確認する。

01



02



03・04

05・06